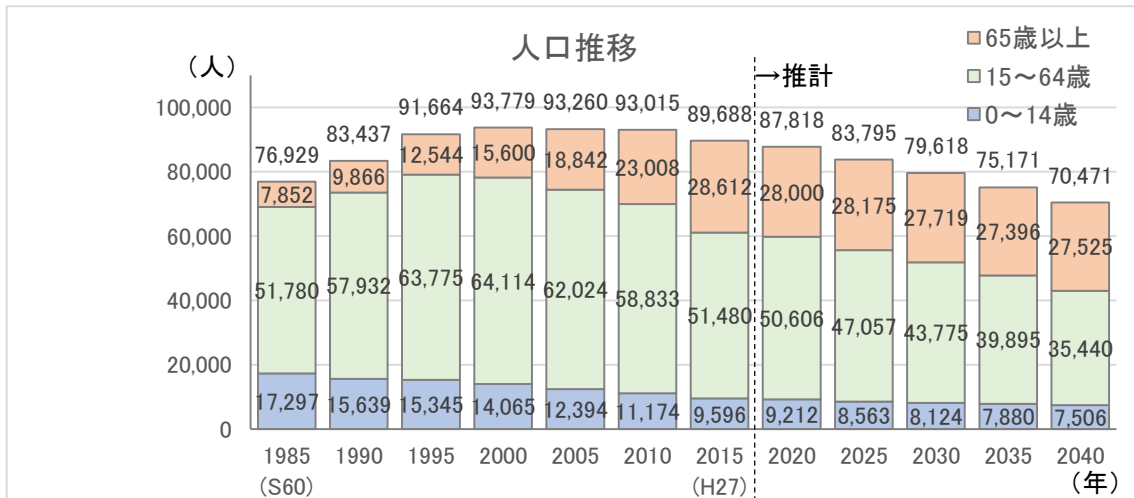
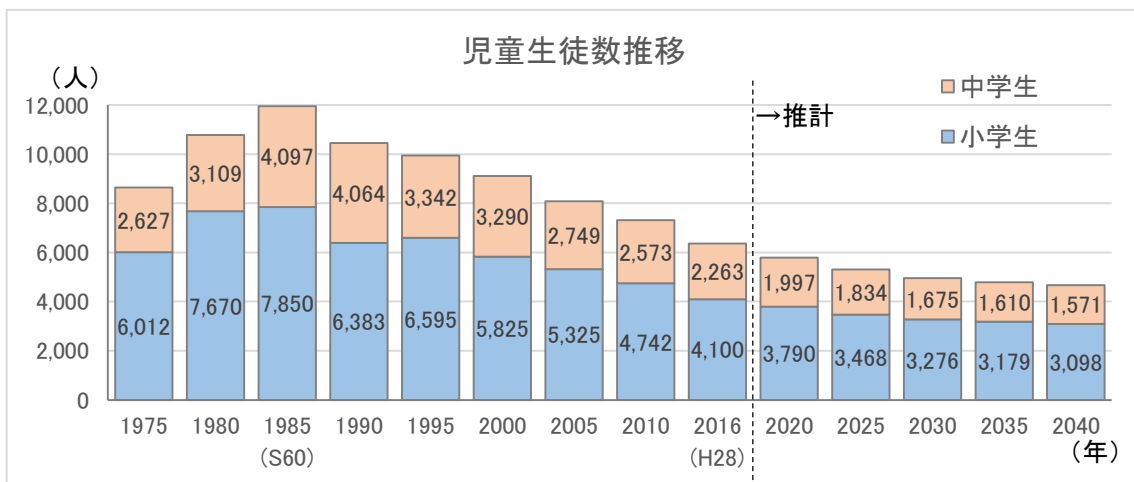


# 茂原市学校再編基本計画【説明会資料】

## 1. 茂原市の人口及び児童生徒数の推移



※2015年までは国勢調査、2020年以降は「茂原市人口ビジョン」より



※2016年までは各年5月1日現在の実数、2020年以降は「茂原市人口ビジョン」より推計

## 2. 基本計画策定までの経緯

- H27.1 文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」
- H27.3 茂原市立小中学校の適正規模を決定（下記参照）
- H28.10 茂原市学校再編計画審議会を設置（～H29.3）
- H28.11 保護者アンケートの実施
- H29.1～2 基本計画案に対するパブリックコメントの実施
- H29.3 基本計画を策定

## 3. 茂原市立小中学校の適正規模（平成27年3月教育委員会会議で決定）

小学校 12学級以上18学級以下（1学年2学級～3学級）  
 中学校 9学級以上18学級以下（1学年3学級～6学級）  
 ※普通学級の学級数を基準とする。

#### 4. 保護者アンケートの概要

##### (1) 実施概要

対象者 茂原市立小中学校の児童生徒の保護者全員  
 実施期間 平成 28 年 11 月 21 日(月)～11 月 30 日(水)  
 実施方法 各学校を通じて配付、回収  
 配付数 6,377 (小学校 4,115、中学校 2,262 H28.10.1 現在数)  
 提出数 3,715 (小学校 2,474、中学校 1,241)  
 回答率 58.3% (小学校 60.1%、中学校 54.9%)

※回答率について：学校に通う児童生徒が複数いる家庭で、学校で重複配付しないようにしたり、各家庭で1枚だけ提出したりしている場合がある。

##### (2) 回答概要 ※端数処理や複数回答のため、合計が 100%にならない場合がある。

###### Q 2 小規模校に対する考えで最も近いもの (1つ)

選択肢	小学校	中学校	全体
1. 小規模校が統廃合されることはやむを得ない	63.9%	65.4%	64.4%
2. 小規模校は積極的に統廃合すべき	6.3%	5.8%	6.1%
3. 小規模校でもできるだけ統廃合は避けるべき	20.0%	19.2%	19.7%
4. わからない	8.8%	8.6%	8.7%
その他 (白紙、複数回答など)	1.0%	1.0%	1.0%

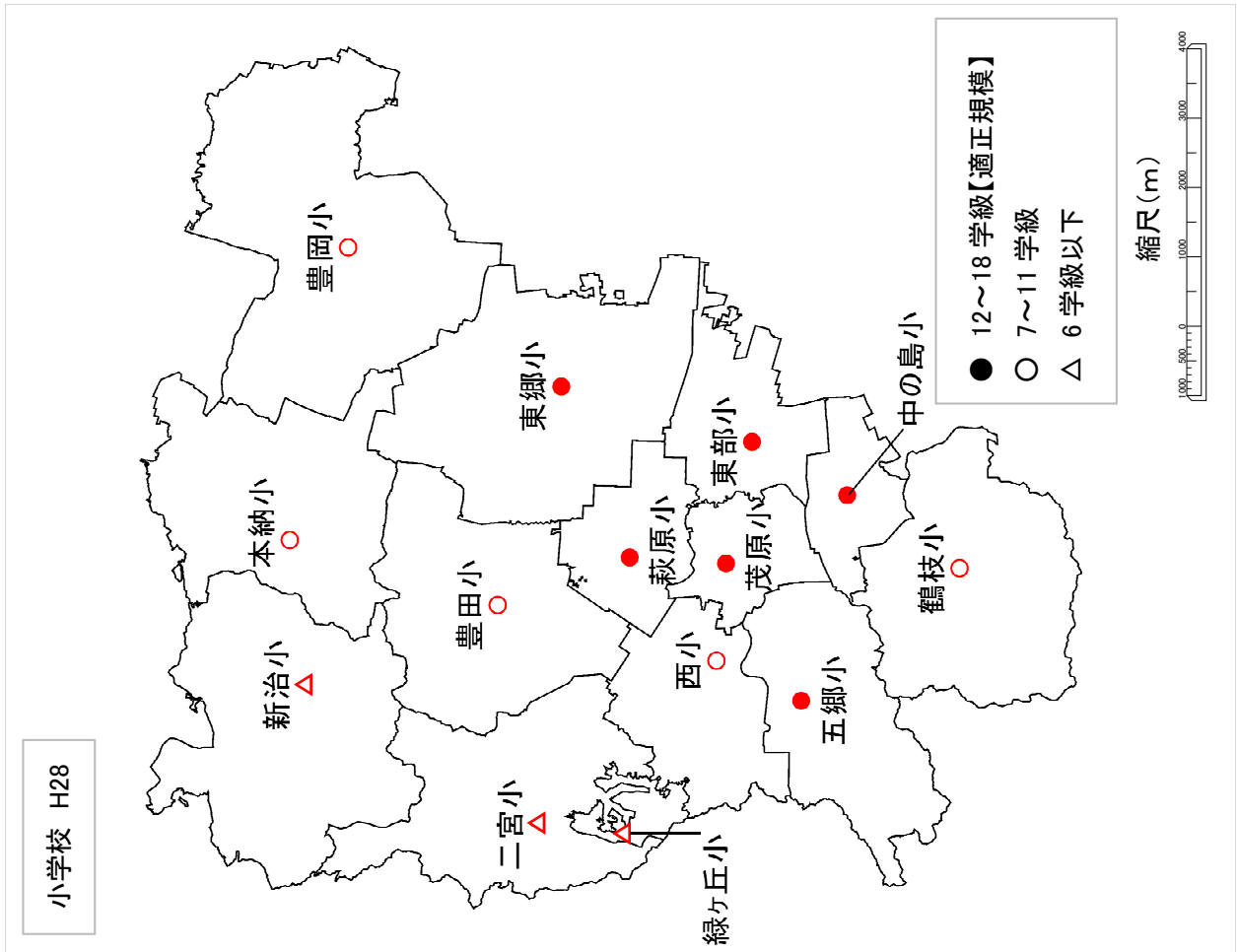
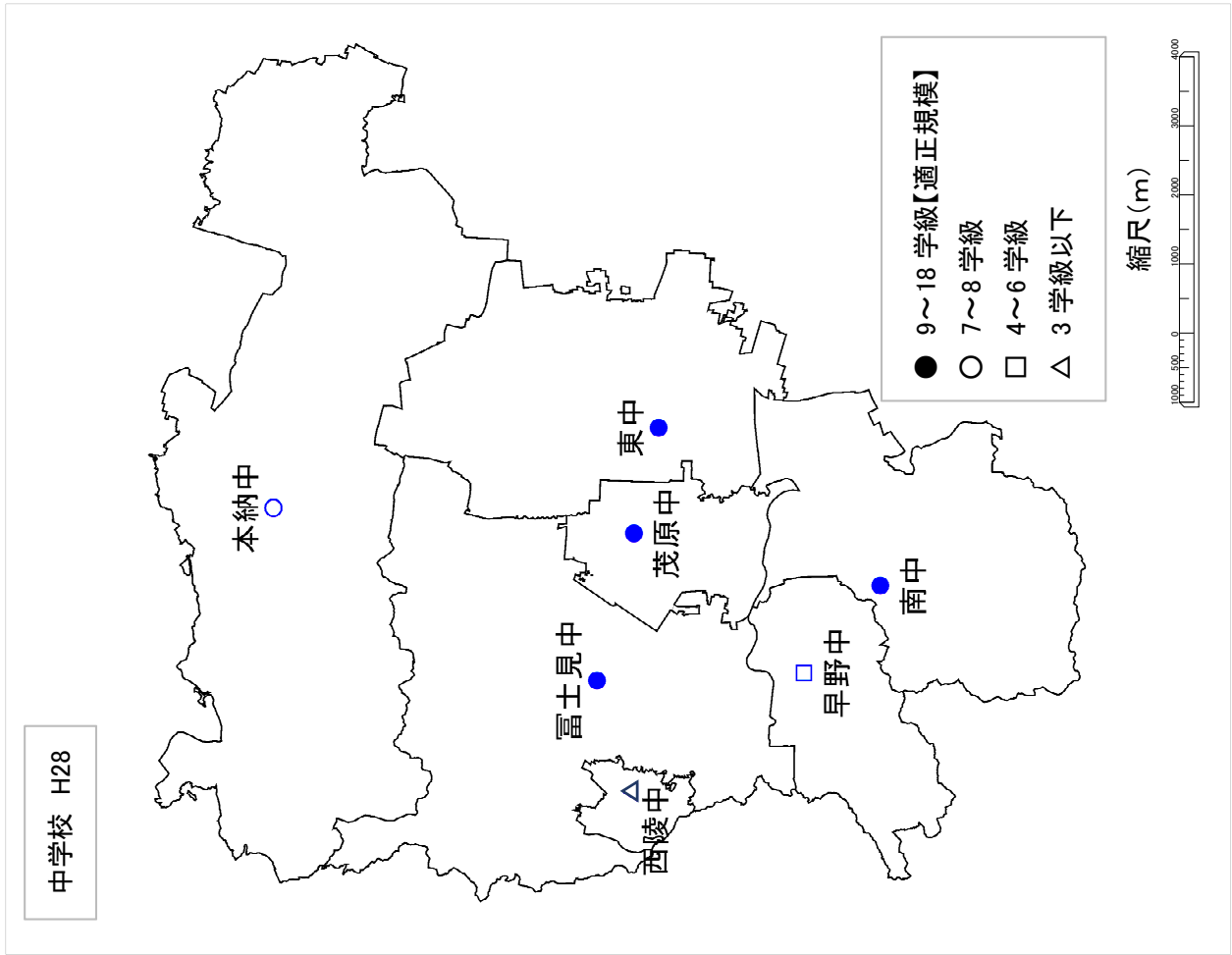
###### Q 3 子どもが通う小中学校が統廃合される場合に心配な点 (3つ以内)

選択肢	小学校	中学校	全体
家から学校までの距離や通学時間	85.5%	81.8%	84.3%
環境変化による子どもへの影響	60.0%	61.6%	60.6%
通学路の安全確保	54.0%	49.5%	52.5%
通学手段	51.0%	43.4%	48.4%
現在の学校跡地がどうなるのか	4.5%	6.3%	5.1%
わからない	0.8%	1.6%	1.1%
その他	1.5%	1.5%	1.5%

###### Q 4 学校の統廃合を審議するにあたり配慮してほしいこと (3つ以内)

選択肢	小学校	中学校	全体
児童生徒の通学手段	84.5%	77.3%	82.1%
統合後の学校の建物や施設の整備	48.9%	46.6%	48.2%
一定の集団規模 (児童生徒数) の確保	45.7%	44.9%	45.4%
地域活動とのつながり	15.2%	14.5%	15.0%
廃校される学校の跡地利用	12.2%	14.5%	13.0%
わからない	2.6%	3.8%	3.0%
その他	3.3%	2.3%	2.9%

5. 茂原市の学校の現状



## 6. 小規模校のメリット・デメリット（文部科学省ホームページより）

	メリット	デメリット
学習面	児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	集団の中で、多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 学級間の相互啓発がなされにくい。
	学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動、部活動等に制約が生じやすい。 多様な学習・指導形態を取りにくい。
生活面	児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	人間関係が固定化しやすい。 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。
	児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 学校が一体となって活動しやすい。	経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いにくい。 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導についての相談等が行いにくい。 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 教員の出張等の調整が難しくなりやすい。
	施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	保護者や地域社会との連携が図りやすい。	PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

## 7. 学校再編の考え方

### （１）教育環境の充実を最優先

- ・互いに切磋琢磨できる環境（一定の集団規模）の確保
- ・保護者や子どもたちの意見の尊重
- ・学校行事や部活動等の充実
- ・通学に対する配慮（通学手段、通学距離、通学路の安全性）
- ・学区の検討
- ・一小一中の問題への対応
- ・使用する校舎の検討
- ・小学校と中学校との別々の検討

### （２）再編にあたっての配慮

- ・再編に関する情報の発信、提供
- ・地域住民の理解
- ・学校施設及び跡地の活用方法の検討
- ・地域コミュニティや避難所についての配慮
- ・施設の老朽化への対応
- ・他の計画（茂原市総合計画、茂原市公共施設等総合管理計画等）との整合

## 8. 学校再編の基本方針

### (1) 適正規模の維持

- ・子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに切磋琢磨できるよう、複式学級や単学級を解消し、将来にわたり学校の適正規模を維持することを目指します。
- ・一定の集団規模を確保することで、学習活動や学校行事、部活動等の充実を図ります。
- ・学区の見直しを含め、全市的な視点で再編を実施します。

### (2) 再編後の教育施設等の充実

- ・児童生徒が安心して学習できるよう、再編後の施設（校舎、トイレ等）の改修に努めます。
- ・教育力の向上を図るとともに、小中一貫教育についても検討します。

### (3) 通学手段・安全性の確保

- ・再編により通学が遠距離になる児童生徒に対しては、スクールバスの導入など、通学手段を確保します。
- ・新しく通学路となる箇所を把握し、既存の通学路と併せて整備を行い、通学における安全性を確保します。

## 9. 学校規模ごとの基本的な方向性

### (1) 小学校

全体の学級数	文部科学省手引の抜粋	基本的な方向性
1～5学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級が存在</li> <li>・一般に教育上の課題が極めて大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかに統廃合する</li> </ul>
6学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えができない</li> <li>・児童数に大きな幅があり、少ない場合は特に課題が大きい</li> <li>・更なる小規模化の可能性なども勘案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後児童数の増加が見込めなければ、速やかに統廃合する</li> </ul>
7～8学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ又は2つの学年を除きクラス替えができない</li> <li>・全体の児童数なども勘案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後児童数が減少し単学級となる見込であれば統廃合を行う</li> </ul>
9～11学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半分以上の学年でクラス替えができる</li> <li>・全体の児童数なども勘案し課題を整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統廃合や学区の見直し等、適正規模に近づける方策を検討する</li> </ul>
12～18学級	【適正規模】	

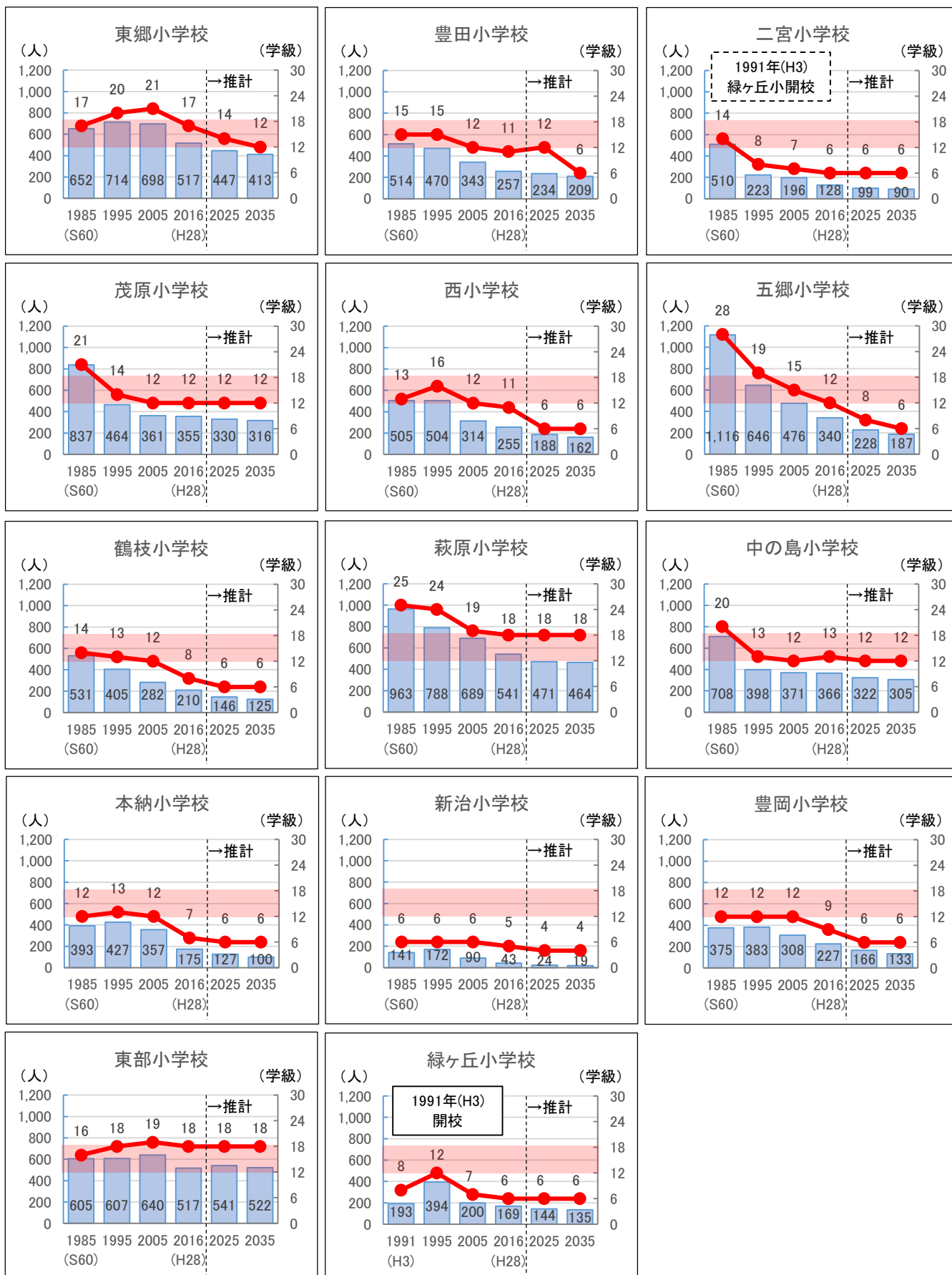
### (2) 中学校

全体の学級数	文部科学省手引の抜粋	基本的な方向性
1～2学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級が存在</li> <li>・一般に教育上の課題が極めて大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかに統廃合する</li> </ul>
3学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えができない</li> <li>・生徒数に大きな幅があり、少ない場合は特に課題が大きい</li> <li>・更なる小規模化の可能性なども勘案</li> </ul>	
4～5学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ又は2つの学年を除きクラス替えができない</li> <li>・全体の生徒数なども勘案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後生徒数が減少する見込であれば、統廃合や学区の見直し等を行う</li> </ul>
6～8学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね全学年でクラス替えができる</li> <li>・同学年に複数教員を配置できる</li> </ul>	
9～18学級	【適正規模】	

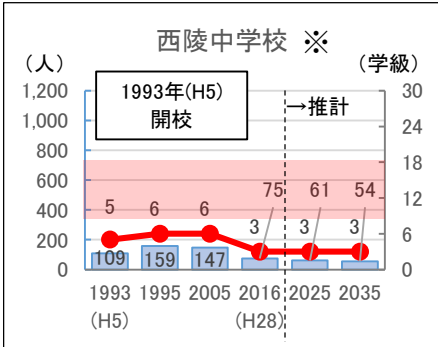
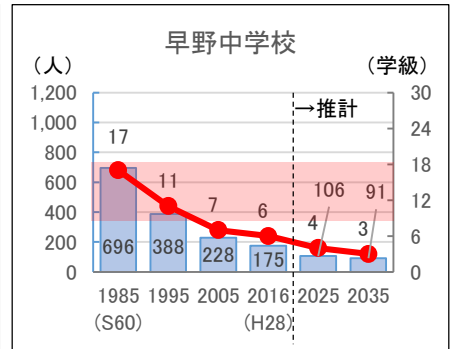
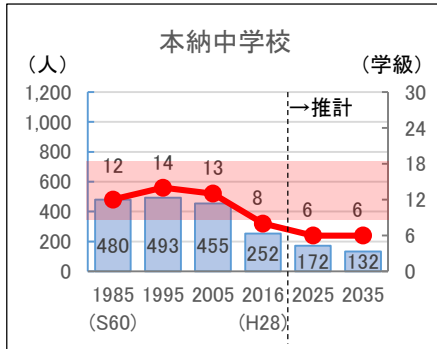
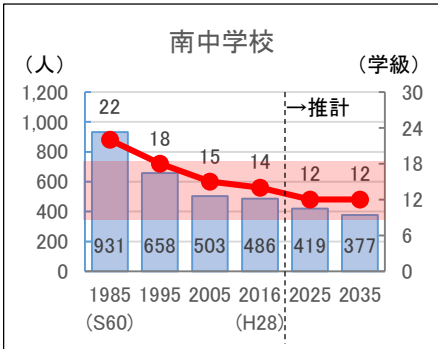
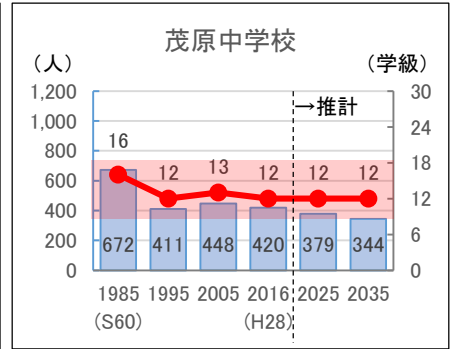
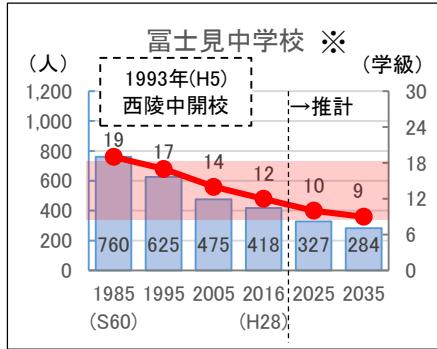
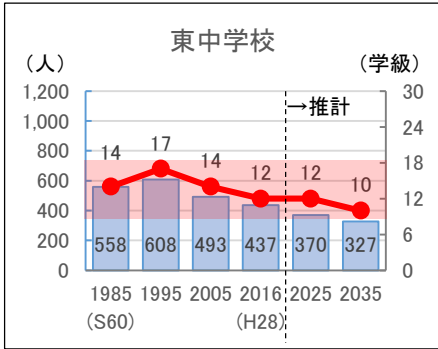
(資料) 学校ごとの児童生徒数及び学級数の推移・推計

※縦棒は児童生徒数（左軸）、折れ線は普通学級の学級数（右軸）。折れ線が色の付いた範囲に入っていれば適正規模であることを示す。なお、端数処理等で合計が合わないことがある。

(1) 小学校



(2) 中学校



※このグラフは、平成29年3月に作成した茂原市学校再編基本計画から抜粋したものです。

西陵中学校については、平成29年4月の教育委員会会議において、原則として平成32年(2020年)4月1日に富士見中学校に統合することを決定しました。